

< 2023 「これからの教育と研究」大学生協教員調査」アンケート結果報告 >

岐阜薬科大学 版 2023年 10月
岐阜大学消費生活協同組合

【 本調査実施の所感 】

今回の調査で、先生方からみた学生の学び方や課題、また先生方が授業や研究にあたって困っておられることが見えてきました。

大学生協へのご要望や期待も多くのお声をお寄せいただいています。

先生方のお困りごとへのサポートなど、ニーズに応じていくため、これまで行っている学生へのデバイス提案や ICT サポート、教科書販売、物品や書籍手配等に加え、今後、次のような取り組みを検討してまいります。

- ① 学生が自身の学びをより良くしていくために…不足しているスキルを身に着けるための講座や書籍提案等
- ② 先生方が授業をスムーズに進行するために…学生の ICT サポートに加え、先生方の ICT や授業準備・教材作成のサポート、教科書や電子教科書のニーズに応えるためのコンテンツ調達や利用提案
- ③ 先生方の研究時間の確保や効率化のために…時間不足や効率化に役立つ物品の提供にとどまらず活用例などのお役立ち情報の提供、大学生協への注文や連絡などの便利さの向上

以上

< 2023 「これからの教育と研究～大学生協教員調査」 アンケート結果報告 >

岐阜薬科大学 版

アンケート期間：2023/6/12 ～ 7/31

■ アンケート結果 の 報告概要

- 1) 基本情報
- 2) コロナ禍以降の「授業」の変化
- 3) 学生の「学び」の変化
- 4) 「教科書」に対する意識
- 5) 研究活動や研究費の動向

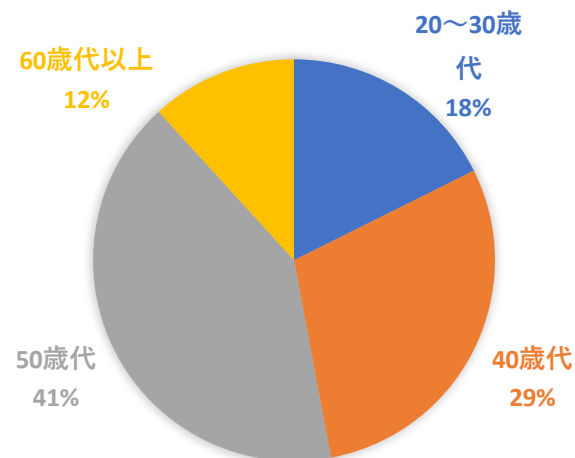
1) 基本情報

回答数(自大学)	17
回答数(全国)	2238

全教員86名（2023年5月1日現在）
回収率 19.7%

研究分野	人文・社会・ 教育 関連	理・工・農 関 連	医・歯・薬・健 康 関連
自大学	5.9%	11.8%	82.4%
全国	47.6%	39.1%	13.3%

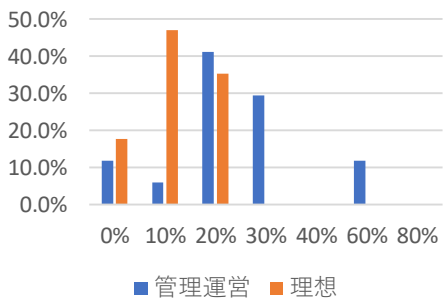
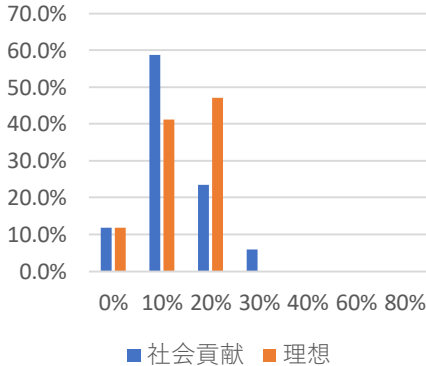
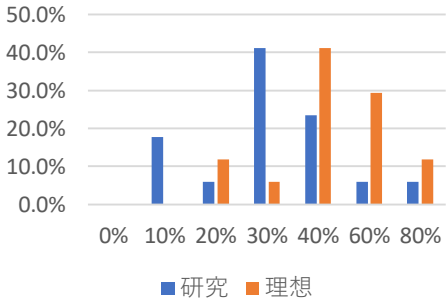
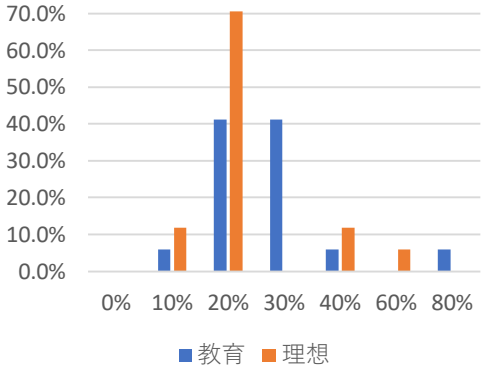
先生の年齢	20～30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
自大学	17.6%	29.4%	41.2%	11.8%
全国	12.9%	29.5%	37.1%	20.6%



- 5.一週間あたりの行動時間の配分についてお聞きます。下記項目について大まかな時間配分をお聞かせください
- 6.一週間あたりの行動時間について、本来こうしたいという配分を選択してください

行動時間配分		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	教育	0.0%	5.9%	41.2%	41.2%	5.9%	0.0%	5.9%
	研究	0.0%	17.6%	5.9%	41.2%	23.5%	5.9%	5.9%
	社会貢献	11.8%	58.8%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理運営	11.8%	5.9%	41.2%	29.4%	0.0%	11.8%	0.0%
全国	教育	0.4%	3.1%	14.1%	24.9%	30.3%	20.9%	6.2%
	研究	3.0%	25.5%	26.3%	23.5%	15.3%	5.4%	1.1%
	社会貢献	20.2%	53.1%	18.1%	7.0%	1.4%	0.3%	0.0%
	管理運営	8.0%	30.7%	26.5%	16.9%	12.0%	4.7%	1.1%

行動時間配分(理想)		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	教育	0.0%	11.8%	70.6%	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%
	研究	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	41.2%	29.4%	11.8%
	社会貢献	11.8%	41.2%	47.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	管理運営	17.6%	47.1%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
全国	教育	0.6%	5.8%	22.3%	33.9%	29.4%	6.8%	1.3%
	研究	0.5%	1.9%	6.6%	19.2%	40.8%	23.9%	7.0%
	社会貢献	11.9%	53.6%	25.4%	7.5%	1.4%	0.2%	0.0%
	管理運営	21.5%	55.6%	17.2%	4.1%	0.9%	0.4%	0.2%



【 調査概要 】

- 行動時間の現状と理想の差は、全国傾向と同じ傾向。
教育にかかる時間は少し削減
研究の時間を増やし
管理運営の時間をより短く
- 社会貢献により時間を割きたい希望が高いのは、医薬系だからだろうか
- アンケート回答者の授業担当コマ数は、全国平均の半分ぐらいになっている。

- 7.現在、授業を担当されていますか
- 8.今学期ご担当されている授業のコマ数（1週間あたり）を教えてください

授業担当	授業を担当している	授業はない
自大学	94.1%	5.9%
全国	95.8%	4.2%

担当授業コマ数	最大値	最小値	平均値
自大学(回答数)	6	0	2.175
全国(回答数)	90	0	5.34

2) コロナ禍以降の「授業」の変化

回答	%	回答数
特に変化はない	31.3%	5
出席の取り方が変わった	50.0%	8
資料や板書の共有方法をデジタル化した	43.8%	7
レポート等の提出をオンライン化	43.8%	7
予習/復習課題を増やした	25.0%	4
新たにPCや周辺機器を購入した	18.8%	3
テストをオンライン化した	12.5%	2
レポート課題増	12.5%	2

9.授業の進め方や評価方法等で、コロナ禍前とコロナ禍後の変化はありますか

【調査概要】

- 変化があった約7割の先生で、その変化内容を順位別に並べたのが左の表。
全国平均値にたいして「出席の取り方が変わった」比率が高い
コロナ禍で、授業展開にデジタルを取り入れられたことを反映か。
資料や板書の共有方法のデジタル化
レポート等の提出のオンライン化
テストのオンライン化
は、別途おこなった学生のICT調査結果にも反映している。
- 授業の準備にかかわって、特に変化がない率が高いのは、コロナ禍前から自作プリントの配布、自作スライドの利用が多かったからかもしれない。
- その一方、LMSの利用率が、全国平均より低くなっている。

授業の進め方や評価方法 の変化1	予習/復習課題を増やした	出席の取り方が変わった	新たに教科書を指定した	教科書を紙から電子教科書に変更した	教科書の指定をやめた	資料や板書の共有方法をデジタル化した	授業内での動画の活用を増やした	TA/補助をお願いした	テストをオンライン化した	レポート等の提出をオンライン化
自大学	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.8%	0.0%	0.0%	12.5%	43.8%
全国	20.7%	32.7%	3.2%	3.0%	2.1%	48.2%	27.5%	2.6%	23.3%	54.6%

授業の進め方や評価方法 の変化2	レポート課題増	レポート課題減	テストを用意した回数増	テストを廃止した	新たにPCや周辺機器を購入した	独自の休憩時間を用意	特に変化はない
自大学	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	31.3%
全国	15.3%	1.8%	6.5%	3.6%	24.3%	3.2%	14.7%

10. コロナ禍前とコロナ禍後で、授業の準備や準備時間に変化はありますか

授業準備の変化	授業内容準備時間が長くなった	授業直前の準備時間が長くなった	機材設置準備の時間が長くなった	教室持込みの自分の機材・道具が増えた	スタッフとの打ち合わせ時間が長くなった	特に変化はない
自大学	25.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	56.3%
全国	45.1%	25.6%	22.6%	21.6%	2.6%	34.5%

LMS利用	よく使う	時々使う	使わない
自大学	18.8%	12.5%	68.8%
全国	48.7%	15.7%	35.5%

コロナ前LMS利用	よく使っていた	ある程度使っていた	使っていなかった
自大学	0.0%	80.0%	20.0%
全国	22.5%	42.8%	33.4%

LMS利用状況		よく使う	時々使う	使わない
自大学	授業の出席確認	80.0%	20.0%	0.0%
	授業教材などの提示	60.0%	20.0%	20.0%
	課題の提示	40.0%	60.0%	0.0%
	課題の提出	60.0%	40.0%	0.0%
	小テスト	40.0%	20.0%	40.0%
	オンデマンド授業(動画)の配信	40.0%	40.0%	20.0%
全国	授業の出席確認	36.2%	19.0%	40.7%
	授業教材などの提示	79.7%	16.7%	2.5%
	課題の提示	78.2%	17.5%	2.8%
	課題の提出	76.5%	17.6%	4.2%
	小テスト	36.5%	21.2%	35.3%
	オンデマンド授業(動画)の配信	34.4%	37.6%	25.0%

【 調査概要 】

- LMS の利用率は、全国平均に対して 18.8% 低くなっている。
コロナ禍前の LMS 利用率 ある程度 80.0% との乖離が見られる。
- LMS の使い方としては、授業の出欠確認が 80.2% と高い。
課題の提示、課題の提出のトータル利用率も高い
- オンライン、オンデマンド授業の困りごとは、全国と同じ傾向にある。

14.現在のLMS利用で、上記設問以外でよく使う機能がありましたら
ご記入ください

※ この項目の回答はない

17.授業をすすめるにあたり大学から求められていることはありますか

学生の満足度の向上
学生の満足度の向上
対面ですること。
学生満足度の向上、カリキュラムの網羅
電気代を節約する

18.授業を進めるにあたって生協にサポートしてほしいこと、
あったらよいと思うサービスはありますか

学生のPC導入と使い方サポート

オンライン/オンデマンド授業の困りごと	学生の反応がわからない	動画コンテンツ作成	教材作成(動画除く)	著作権への配慮	実験/実習/実技などの行い方	大学設備/機材が古い/用途に合っていない	配信機材トラブルで授業中断	学生側の機材やネット環境のトラブルで授業が中断	身体への負荷	オンライン・オンデマンド授業はない	特に困っていることはない
自大学	56.3%	0.0%	18.8%	37.5%	12.5%	6.3%	12.5%	18.8%	0.0%	6.3%	12.5%
全国	50.8%	24.3%	17.1%	40.4%	16.7%	13.0%	13.8%	18.8%	21.4%	9.8%	14.1%

対面授業の困りごと	受講者数制限がある	オンライン授業を学生が好む	オンライン授業より質問が出ない	授業の進捗管理が難しくなった	予習・復習の課題を出しづらくなった	特に困っていることはない
自大学	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%
全国	3.2%	16.9%	6.1%	5.7%	2.7%	61.5%

3) 学生の「学び」の変化

コロナ前後の学生の変化	自大学	自大学 (回答数)
特に感じている変化はない	37.5%	6
学生とのメール・チャットが増加した	25.0%	4
出席率がよくなった	12.5%	2
出席率が悪くなった	12.5%	2
学生の成績が悪くなった	12.5%	2
学生・保護者からの相談が増えた	12.5%	2

19.コロナ禍前とコロナ禍後で、学生の変化について感じていることはありますか

【 調査概要 】

- 約6割の変化を感じている先生の回答の内容は左表のとおり。
メールやチャットは、学生にはなじみやすいとみられる。
- 対面授業へのデバイスの持ち込みには、肯定的な教員が多い。
別途実施した学生の ICT 調査結果では、ノートティキングにデバイスを活用している学生は少なく、多くの学生が「デジタルを活用した学び方をまだ知らない状況」にあるといえる、
効率的なノートティキング、膨大な学習内容の整理、まとめ方・活用法がわかる「大学生のリテラシー入門講座」が必要とされている。

コロナ前後の学生の変化	出席率がよくなった	出席率が悪くなった	学生から対面質問が多くなった	学生から対面質問が少なくなった	学生とのメール・チャットが増加した	学生とのメールやチャットが減少した	学生の成績が向上した	学生の成績が悪くなった	学生・保護者からの相談が増えた	学生・保護者からの相談が減少した	特に感じている変化はない
自大学	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	0.0%	37.5%
全国	9.9%	17.2%	5.9%	14.9%	33.6%	1.9%	3.6%	15.0%	5.5%	0.6%	29.3%

20.対面授業で、学生がデバイスやデジタルコンテンツを持ち込んで授業中に利用することについて、どのように思われますか

21.上記の理由があればお聞かせください

対面授業のデバイス持ち込み	積極的に使ってもらいたい	学生が自身で利用したいなら使えばよい	どちらともいえない	あまり良いとは思えない
自大学	43.8%	50.0%	0.0%	6.3%
全国	43.1%	41.0%	11.3%	4.6%

時代の流れなので使いこなせていけば問題ない

既に講義の板書内容をスマホで撮影する学生がいるが、真面目にノートをとる学生と比べ、決して成績は良くない。
学習効果が上がると思うのでよい。授業に関係ないことをする学生は、デバイスを問わず行うので、制限する理由にはならない。

学習効果が上がると思うのでよい

紙を使用する頻度も少なくなるため（エコ）。学生も教員も資料の管理が行いやすい。

22.授業を進行するにあたって、不足していると思われる学生のスキルを教えてください（最大3つ）

不足している学生のスキル	情報リテラシー	文章力	英語や語学力	パソコンスキル	論理的思考力	コミュニケーション力
自大学	37.5%	62.5%	18.8%	31.3%	43.8%	37.5%
全国	41.7%	65.6%	21.1%	26.4%	59.2%	40.1%

4) 「教科書」に対する意識

【調査概要】

- 教科書を使用した授業 と しらない授業の比率は、全国と同様に 半々。

授業内の教科書の使われ方も、高校時代のように毎回利用されていない傾向は、全国も同様。

自作プリント、自作スライドの利用率は、50% 前後と高い。

学生からすると「大学の教科書は、高校時代と使われ方がちがう。どうしたら大学の学修に役立つのか」教科書の活用方法を知ることが必要となっているともいえる。

- LMS を通じて自作プリントの配信が可能になっているが、それでも「紙で配布」している（37.5%）率が高い。

LMS の利用へのハードルが高いのか、岐阜薬科大学の LMS システムの現状の調査が必要とされる所。

指定している市販教科書	市販の教科書を使用して いる授業が多い	市販の教科書を使用して いない授業が多い	市販の教科書は使用して いない
自大学	50.0%	25.0%	25.0%
全国	50.0%	24.3%	25.7%

指定教科書の使用頻度	授業内で毎回 使う	授業内ではと きどき使う	授業内では参 考程度に閲覧 する	授業内ではほ とんど使わず 紹介程度
自大学	41.7%	25.0%	25.0%	8.3%
全国	53.2%	21.7%	14.7%	5.5%

市販教科書以外何をを使うか	自作プリント を紙で配布	自作プリント のPDFデータ を共有	自作スライド 表示	板書	WEBページ	動画コンテン ツ	公開されてい るジャーナル ／論文
自大学	37.5%	50.0%	62.5%	0.0%	0.0%	6.3%	6.3%
全国	32.7%	43.2%	49.7%	20.1%	9.2%	15.4%	9.5%

市販教科書使わない理由	授業に適した ものが存在し ない	部分的に使い たいだけ	価格が高い (学生の負担 が大きい)	絶版になって いる	内容が古い／ 最新の情報・ 知見が足りな い
自大学	87.5%	37.5%	12.5%	0.0%	25.0%
全国	84.1%	46.7%	44.9%	6.4%	13.7%

4) 「電子教科書」に対する意識

【調査概要】

■ 電子教科書への関心は、まだ低い。

また、メリットについても、「学生がいつでも持ち歩ける」程度の認識にとどまっている。

「学生が閲覧のためにデバイスを購入させること」にハードル感をもたれている。

授業での自作プリント、自作スライドの利用率が 50 ～ 60% あることを踏まえると、これらのプリント、スライドを電子教科書することで、デジタルを活用した授業の展開、学生のデジタルを活用した学びの進展に大きな影響が生ずるともいえる。

電子教科書の採用に興味	すでに電子教科書を採用している	電子教科書に興味がある	どちらともいえない	電子教科書には興味はない
自大学	0.0%	31.3%	56.3%	12.5%
全国	3.7%	30.1%	40.5%	25.7%

電子教科書採用メリット	授業のポイント を学生へ事前 事後に明示 しやすい	ログ閲覧機能 を活かし、学 生の授業の 進度を見られ る	ログ閲覧機能 を活かし、授 業計画を検討 しやすい	授業で使用する 資料・教材を 作る必要が ない	学生がいつで も持ち歩ける こと	学生のICTス キル向上に役 立つ	メリットはあ まりよくわか らない
自大学	6.3%	6.3%	6.3%	6.3%	43.8%	6.3%	18.8%
全国	17.4%	11.5%	5.3%	15.9%	41.2%	10.8%	22.1%

電子教科書ハードル	先生がお使い のデバイスが ないまたは古 い	学生が閲覧 のためにデバ イスを購入さ せること	適当なコンテ ンツがない	先生方への 技術的なサ ポート	学生の対応 やサポートの 窓口	授業方法を 変える必要が ある
自大学	6.3%	50.0%	31.3%	0.0%	6.3%	0.0%
全国	5.3%	24.1%	38.9%	12.4%	12.6%	13.9%

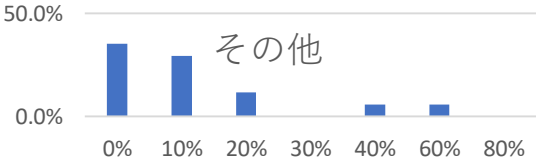
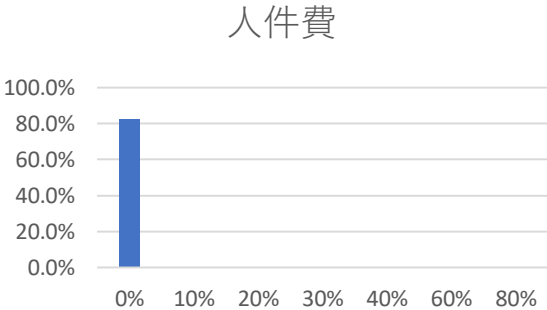
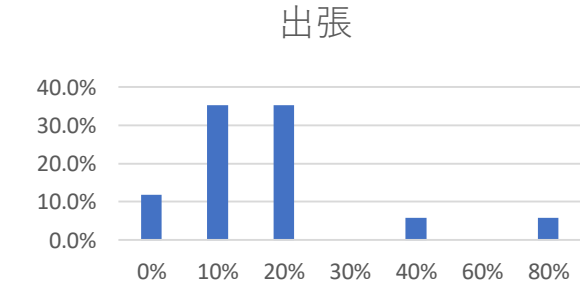
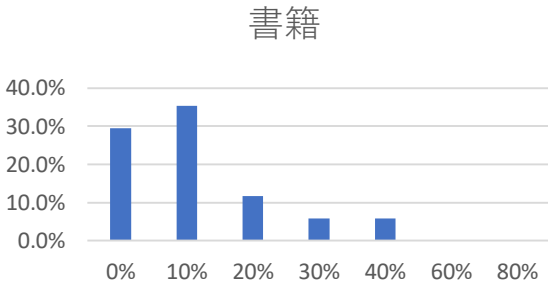
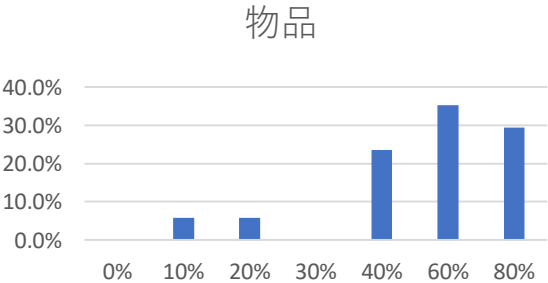
電子教科書採用検討について	思う	どちらともいえない	思わない	すでに電子教科書を採用している
自大学	25.0%	56.3%	0.0%	0.0%
全国	30.2%	40.5%	9.7%	1.4%

5) 研究活動や研究費の動向

【 調査概要 】
■ 全国平均に対して物品への支出が多めになっているのは、実験などが多い医学系の傾向だろうか。

昨年度研究費利用割合		0%	10%	20%	30%	40%	60%	80%
自大学	物品	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	23.5%	35.3%	29.4%
	書籍	29.4%	35.3%	11.8%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%
	出張	11.8%	35.3%	35.3%	0.0%	5.9%	0.0%	5.9%
	人件費	82.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	35.3%	29.4%	11.8%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%
全国	物品	1.9%	8.8%	15.5%	14.1%	16.9%	19.7%	17.6%
	書籍	16.3%	25.3%	14.7%	10.5%	8.9%	6.0%	5.3%
	出張	11.7%	22.9%	19.8%	13.4%	10.0%	5.5%	2.4%
	人件費	42.5%	14.1%	6.7%	3.0%	2.1%	0.9%	0.3%
	その他	23.5%	26.7%	12.0%	3.6%	2.1%	1.2%	0.9%

研究費で今年度割合を増やしたい項目	物品	書籍	出張	人件費	前年通りでよい
自大学	35.3%	5.9%	11.8%	0.0%	52.9%
全国	21.2%	11.7%	42.0%	12.6%	33.0%



5) 研究活動や研究費の動向

生協で購入する理由	自大学	自大学 (回答数)
発注しやすい	47.1%	8
必要なものがあるから	35.3%	6
大学・研究箇所・教職員からの指定	29.4%	5
会計処理がスムーズ	29.4%	5
納期	23.5%	4
研究室から近いから	23.5%	4
安価だから	17.6%	3
担当者の来訪・人柄	11.8%	2
時間を選ばず発注できる	0.0%	0
アフターフォロー	0.0%	0

【 調査概要 】

- 生協で購入する理由を回答率で並べ直したのが左図。
医学部店における日常的な店舗展開が、どの項目に反映しているのか。
あらための振り返りが必要。
毎週配布「ホットライン」を定期的に配布し、
研究室で必要となる情報が届いている（パンフ、カタログなど）
取扱いの可否連絡、見積書、納期などがしっかり行われている
問合せ、発注しやすい
身近に感じてもらえている。
- 薬学部の研究室で利用されているものには、生協では取り扱えない医薬品などの商品もあるが、今までの蓄積を踏まえて、より研究室に役立つ校費活動が、生協トータルとして展開が求められている。
研究室の活動をより理解すること = 何が必要とされているのか
より利用しやすいシステムの導入で、店舗活動のレベルアップ
商品担当部門の枠を超えた情報提供活動の強化
学内にいるからこそ提供できるサービスの提供開始
が、当面の課題といえる。

研究費:生協でよく購入する	物品	書籍	出張	生協はほとんど利用しない
自大学	52.9%	52.9%	11.8%	5.9%
全国	63.2%	46.5%	4.0%	16.0%

- 大学生協単独では、価格だけの勝負できない。
大学だからこそ利用される商品の納期を早めることや、
店頭で商品・サービスを展開することはできる。
（定番展開の強化、時期、季節にあった企画展開など）

生協で購入する理由	納期	安価だから	必要なものがあるから	研究室から近いから	大学・研究箇所・教職員からの指定	発注しやすい	時間を選ばず発注できる	会計処理がスムーズ	アフターフォロー	担当者の来訪・人柄
自大学	23.5%	17.6%	35.3%	23.5%	29.4%	47.1%	0.0%	29.4%	0.0%	11.8%
全国	12.3%	12.6%	14.5%	34.2%	9.7%	49.8%	9.9%	38.3%	8.2%	8.6%

生協以外で購入する理由	納期	価格	品揃え・生協での取り扱いがない製品サービス	大学・研究箇所・教職員からの指定	発注しやすい	時間を選ばず利用できる	会計処理がスムーズ	アフターフォロー	担当者の来訪・人柄
自大学	35.3%	47.1%	41.2%	29.4%	23.5%	0.0%	11.8%	0.0%	0.0%
全国	25.8%	40.6%	57.0%	6.4%	32.1%	20.8%	12.4%	5.4%	5.7%